

複雑な曲線は、スキャナをうまく活用する



Norio SUZUKI

鈴木規夫

鈴木設計事務所代表。一般住宅のほか、寺社などの日本建築の意匠設計図の作成を主な業務としている

複雑な曲線を多く含む、日本建築の意匠設計図を作成している鈴木規夫氏。スキャナとCADを駆使して、曲線を表現しているという。

「DOS版のJW_CADは6年ほど使っていますが、JWWは使い始めて半年ほどしかたっていないため、操作面での違和感は感じていません。日本建築、とくに彫刻の場合、単純な円や円弧ではなく、半径が微妙に異なる連続した曲線が多いため、CADでの作図は

向いていないと考えていました。手書きの場合は、微妙な力加減や自分の勘で複雑な曲線を表現するのですが、それをCADで行うのはとても困難な作業となります。しかし、手書きで書いたラフスケッチをスキャナで取り込み、そのラフスケッチの曲線をJWW上でなぞっていく練習を重ねるうちに、CAD上でも曲線を書けるようになりました。Windows版になり、スキャナで読み込んだ画像を、直接JWWに直接取り込めるようになった点は大きなメリットですね」